

どんな情報が出るのかを知っておこう

南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ全域で地震発生の可能性が高まった場合に、気象庁から発表される情報です。臨時情報発表後の防災対応を行いやすくするため、「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」のようにキーワードとあわせて発表されます。情報の種類や発表条件、市民の皆さんの行動イメージは次の通りです。

※南海トラフ地震は、「南海トラフ地震臨時情報」の発表がないまま、突発的に発生することもあります。

キーワード	発表条件	市民の皆さんの行動イメージ
調査中	観測された異常な現象が、南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合	今後出される南海トラフ地震臨時情報に注意する
巨大地震注意	監視領域*1内で、マグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価した場合など	<ul style="list-style-type: none"> 地震への備えを再確認する(避難先などの確認、非常持出品の準備など) できるだけ安全な行動を取るようになる
巨大地震警戒	想定震源域内で、マグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合	<ul style="list-style-type: none"> 地震への備えを再確認する 土砂災害特別警戒区域や、耐震性の不足する住宅の居住者は、原則1週間避難することが望ましい その他、必要に応じて自主的に避難する
調査終了	「巨大地震注意」「巨大地震警戒」のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合	後発地震の発生に注意しながら通常の生活を行う

※1 南海トラフ地震の想定震源域内および想定震源域から外側50km程度の範囲。

減災のために備えよう

自助と共助

自らの命、大切な人の命を守るために、できることから備えておきましょう。

建物の耐震化

木造住宅の無料耐震診断や、改修工事の補助などを行っています。詳細は、建築指導課に問い合わせるか、市HPをご確認ください。

家具の固定

戸棚がある家具には、

- ガラス飛散防止フィルム
- 滑り止めシート(食器など)

などの対策もしましょう。

避難場所や避難経路の確認

非常持出品の準備

感震ブレーカーの設置

感震ブレーカーとは…設定値以上の地震の揺れを感知して、自動的に電気の供給を遮断することで、電気火災を防ぐ装置です。

家族会議

非常備蓄品の準備

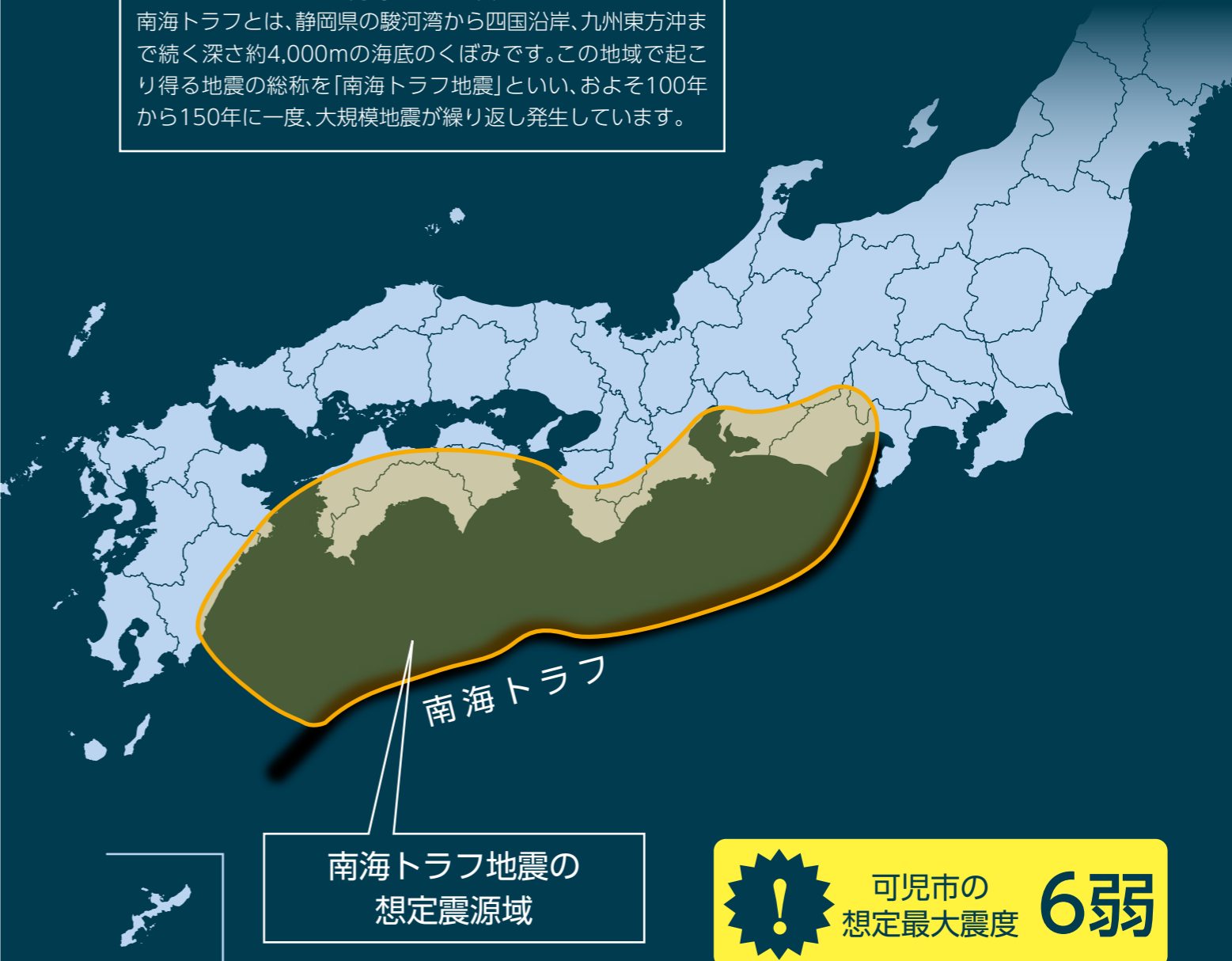
※内閣府のリーフレットを参考に作成。

地震災害への備え、できていますか？

防災安全課

平成28年熊本地震や平成30年北海道胆振東部地震など、甚大な被害をもたらす地震が続発しています。岐阜県内には100を超える活断層が密集しており、どの地域においても震度6強以上の内陸直下型地震が発生する可能性があります。また、近いうちに必ず起こるといわれている「南海トラフ地震」では、可児市内の最大震度は6弱、避難者数は3,000人超と想定されています。こうした災害に備えて、日頃から防災用品を整えるなど、災害への準備をしましょう。

— 南海トラフ地震 —
南海トラフとは、静岡県駿河湾から四国沿岸、九州東方沖まで続く深さ約4,000mの海底のくぼみです。この地域で起こり得る地震の総称を「南海トラフ地震」といい、およそ100年から150年に一度、大規模地震が繰り返し発生しています。



南海トラフ地震の想定震源域

可児市の想定最大震度 **6弱**

共助 地域での防災力を高めましょう

地域で防災への取り組みを積極的に行う、土田横町自治会の亀谷さんに話を伺いました。

「共助」で高まる防災力
困っている人がいれば手を差し伸べて助け合う。一人では困難なことも、地域の人たちで協力し、助け合えば、乗り越えられる場面があると思います。そんな「共助」が加われば、防災力はより一層高まります。

地域の防災訓練に参加するなど、できることから始めてみてはいかがでしょうか。

Interview

横町自治会
防災対策準備班
亀谷 義郎 さん



私は、こんな準備をしています！

- 家具や家電が倒れないように固定(特に寝室)
- ガラスが割れるなどして、素足で歩けなくなることもあるため、寝室にスニーカーなどを常備
- 懐中電灯や救援で使用する笛などを準備

information

可児市防災訓練

9月の第1日曜日は「可児市防災の日」です。日頃の備えや災害発生時の行動を、家族や地域の皆さんで再確認し、災害に強いまちにしていきたいと思います。

日時 **9月4日(日) 8:00から**

※当日は、「防災行政無線」や「すぐメールか」で、訓練用情報を発信します。また、FMらら、ケーブルテレビ可児でも災害時を想定した訓練放送を行う予定です。

可児市公式 YouTube

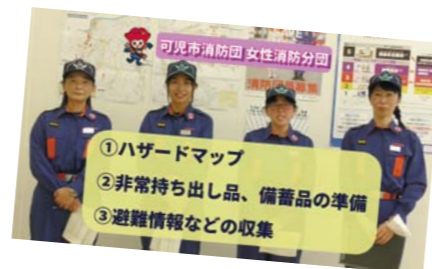
今回、取材に協力していただいた亀谷さんも出演する防災動画「いつ起きてもおかしくない！地震編」を、市公式YouTubeで配信しています。他にも、災害への備えや防災気象情報など、さまざまな視点から防災について学ぶ動画をご覧ください。

『可児市まると防災シリーズ』

- ・世界一受けたい減災教室
- ・多文化共生の取り組みと課題
- ・防災ゲームの紹介

etc.

動画の視聴は
コチラから



自助 “家庭”で災害に備えよう

非常持出品(玄関付近へ)

災害時“すぐに”持ち出せるよう備えておくものです。実際に背負ってみて動ける重さか確認しておきましょう。

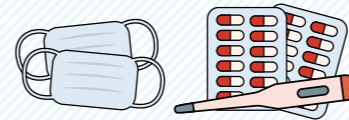
両手が
空くリュックが
おすすめ

◎水と食料

食料はチョコレートやキャンディーなど、調理しなくても食べられるものがおすすめ

◎コロナ禍で一緒に準備したいもの

マスク、体温計、アルコール消毒液、常備薬、お薬手帳、ティッシュ、ペーパータオル、ポリ袋、ハンドソープ、使い捨てのビニール手袋、上履き など



その他の持出品や備蓄品は
ホームページ
市HPで確認できます



非常備蓄品(家に置いておくもの)

ライフラインが寸断され、復旧するまでの数日間(最低3日、できれば7日)を支える備えです。飲み水として1人1日3ℓ程度必要です。卓上コンロを準備しておく、災害時に温かいものが食べられ、心の不安が軽くなります。

実践してみよう

ローリングストック

缶詰、レトルト・インスタント食品、加工品などを普段から多めに買い、使った分だけ新しいものを補充する方法です。備蓄した食料は、何かがどのくらいあるか、賞味期限は切れていないか、食べ方はどうかなど、普段の食事に取り入れ定期的に確認しましょう。災害時の食事で困ることが減り、日常に近い食生活を送ることが出来ます。



避難所以外に避難できる 分散避難先を検討

自宅

自宅の安全が確保できれば、必ずしも避難所に行く必要はありません。ローリングストックなどを活用し、生活するために必要な食料や日用品(非常備蓄品)を日頃から備えておきましょう。

親戚・友人宅

避難先にしたい親戚・友人宅には、事前に連絡して避難の可否を確認しておきましょう。複数あるとより安心ですね。

ホテルなどの宿泊施設

事前に天候や災害の予想がつく場合は、ホテルや旅館など頑丈な建物で過ごすことも選択肢の一つです。

車(車中泊)

数日程度の短期的な避難であれば、車も選択肢の一つです。ただし、エコノミークラス症候群の危険性もあるので、状況に応じて判断しましょう。

災害が起きた時の行動など 家族で事前に話し合う

避難のタイミングや行動

市が発令する情報を基に、どのタイミングでどう行動するかを確認しましょう。「すぐメールか」や「可児市公式LINE」、「FMらら」は、可児市の情報をいち早く届けます。普段からさまざまな情報ツールを利用して、慣れておきましょう。



集合場所や時間は具体的に

「〇〇学校の鉄棒の前、朝9時または夕方5時」など詳しく決めておくことが、待ち疲れや不安の軽減につながります。

連絡手段を複数持つ

NTT災害用伝言ダイヤル171、携帯電話会社の災害用伝言板など、電話機能が使えなくなった場合を想定して準備しておきましょう。